

はっけん

九州手話サークル連絡協議会
2019年7月発行



今年九州北部では、平年より21日遅い6月末での梅雨入りとなりました。遅い梅雨と一気に近づいてきた暑さに身体もなかなか追いつかない時期ですが、みなさまいかがお過ごしでしょうか。

今回の「はっけん」は、6月22日（土）～23日（日）に長崎市で開催された九手連各会議、研修会についてお伝えします。

幹部会議（研修）に参加して〈R1.6.22開催〉

今年は長崎市で「ファシリテーションを学ぼう～よりよいグループ討議の進め方～」というテーマで研修会が開かれました。講師は長崎県手連会長の小濱規男さんです。最初に参加者に手話歴順に並んでもらい、初心者、中堅、ベテランが混ざるようにグループ分けして研修をスタートしました。

ファシリテーションの意義や活用場面、目標について説明を聞き、それはサークル活動を促進し、少しでも目標に近づく行動へと導いていくこと、話し合いでは自由に発言ができ、批判をせず、建設的な意見の中で共通の目標を見つけることなどを教えていただきました。



そして実際に手話サークルが直面する課題や悩みを出しあい、緊急性、重要度の高いものから順に並び換えて優先順位を決め、解決方法や方向性を見つけていく、というグループ討議の進め方を体験しました。

時間を設定し、進行役、記録係、タイムキーパーを交替しながら話し合いをしていったのですが、慣れないこともあって「時間に追われてしまう」形になっていました。でも繰り返しこのファシリテーションを経験していけば、いつかきっと有意義な時間活用で目標へとぐんぐん近づいていくサークル活動が展開していけるのでは、と感じた研修会でした。講師の小濱さん、ありがとうございました。

大分県 手話サークルひじ 川野順二

評議員会に参加して〈R1.6.22開催〉

幹部研修会、通信員会議に引き続き、17時30分から各県の評議員（29名中、出席27名、委任1名）の参加によって始まりました。

池尻会長、来賓としてご臨席いただいた地元長崎県ろうあ協会坂口会長の挨拶の後、石本さん（長崎）を議長に選任して議事が進められました。



平成30年度の研修・会議等の事業報告、会計決算・監査報告の提案がなされ、異議なく承認されました。次に令和元年度の活動方針、研修・会議等の事業計画、予算の提案がなされ、こちらも異議なく承認されました。

新役員として、

会長 池尻和吉（福岡）、副会長 和田修（福岡）、濱川千鶴子（鹿児島）、事務局長 森保夫（熊本）

各県理事として

和田修（福岡）、山口美由紀（佐賀）、川上順子（長崎）、青山寛六（熊本）、相馬悦子（大分）、濱川千鶴子（鹿児島）の各氏が承認されました。

顧問の村本宗和氏（熊本）も引き続きお願いすることで承認されました。

これまで理事としてご尽力いただいた草野徳（長崎）、高倉尊広（佐賀）、吉富智津子（大分）、嶋田智子（宮崎）の各氏、おつかれさまでした。ありがとうございました。

また非常に残念なことではありますが、宮崎県サ連から、県サ連加盟サークルの急減により、県サ連としての活動が困難な状況になり、九手連を休会したいという申し出が



ありました。出席者としても大きな驚きであり、これまで通り九手連の同志として活動を続けてほしいということは、どの評議員も同じであったと思うのですが、やむなしということでした承されました。

九手連全体で、宮崎県サ連の一日も早い復帰を心待ちにしていきたいと思います。

鹿児島県 指宿なの花 出森俊郎

九手連研修会に参加して 〈R1. 6. 23 開催〉

「情報提供と確認作業」

去る6月23日、長崎で行われた第27回九手連研修会に参加致しました。

福岡県手話の会連合会会長の内堀義喜氏による平成29年度九州北部豪雨の被害状況を自主製作されたDVD鑑賞がありました。このDVDには、テレビ等では放送されていない地域の状況や復興がまだまだな所がよく分かりました。



災害が起きた時には、ろう者・手話の会会員の安否確認や災害状況の確認が必要ですが、朝倉の場合は携帯メール・ラインにて動ける会員が確認作業を行ったとのことで連携の良さを見習わなくてはと思いました。自分が出来ることは何なのかを理解しておくことや仲間を広げることが大事とのお話でした。

- ・聴覚障害者への連絡と正しい情報提供について
- ・通信（FAX）不可の時、道路が通行止め、電気系統が使用できない場合はどうすべきか？
- ・防災用語について（避難準備・勧告・指示）
- ・避難場所はどこなのか？ 避難時の心得は？
- ・災害時の専門用語（罹災証明書等）



など、定期的に繰り返し勉強会を行うことで、教訓が生かされることが分かりました。



午後からは、大分県手連理事の中村義成氏による「防災・支援マニュアル作成と勉強会について」、また長崎県手話サークル連絡協議会の西川竹美氏による「長崎県の防災・減災への取り組み報告」がありました。

長崎では、地域の皆さんと町歩きをして防災マップ作りをされたとのことでした。

やはり「知っている」ということと「理解している」ということは違うので、繰り返し勉強会には参加したいと思いました。



福岡県糟屋地区宇美支部 宮本寿美江

九手連研修会に参加して <R1.6.23 開催>

今回は長崎にて開催され、テーマは「防災・減災について考える」でした。

3人の講師の方が登壇され、最初は福岡県手話の会連合会会長内堀義喜氏による「九州北部豪雨～災害と災害ボランティアを通して～」というテーマで講演されました。

1. 会員の安否確認（ろう者・手話の会）。当日はメールにて行い翌日夕方までに全員の無事を確認。
2. 災害状況確認＝当日は通行止めで断念…。翌日、迂回して甘木市内まで行くが言葉にならない。

その先は断念午後からろうあ者の家を歩行で確認する。その他はメール・ラインにて動ける会員に確認作業を指示し地元ろう協へ連絡。

3. 支援活動＝3日目ろう者の自宅を調査確認、4日目に作業開始。
4. 家族との話し合い＝活動が終わるまで続けること。

仕事も長期休暇を取得する等の体験活動を報告され、聴覚障害者への正しい情報の提供保障が大切であり、組織との連携調整や支援の難しさ、仲間のありがたさ、またマニュアル作りについては柔軟性を持ったマニュアル作りが大切であると話されました。

最後に、家族の理解と応援が第一であり、これからも頑張りますと結ばれました。家族の理解・会社の理解（長期休暇を取得）が無ければできない事であると感じました。（うらやましい）



午後からは、まず大分県手連理事中村義成氏による「防災・支援マニュアル作成と学習会について」を講演されました。

内容は、「大分県聴覚障害者・盲ろう者の支援者用防災マニュアル」説明で、策定委員会を立ち上げ何度も検討を重ね、作成予算を大分県に申請するも時期が遅く却下。印刷代は法人負担、諸経費は各団体で負担し印刷代は1000部で約15万円かかったそうです。

大分市との学習会后、大分市も500部印刷しました。各地域ごとに勉強会を重ね今後の活用・改善を重ねられています。このマニュアルは「大分県聴覚障害者センター」のホームページからダウンロードできるということでした。

最後は、長崎県手連事務局長西川竹美氏による「長崎県の防災・減災への取組報告」でした。



1997年に災害ネットワークを作り、「諫早手話サークル」をモデル地区に選定されていました。

諫早手話サークルは2008年から「となりぐみ探検隊」を立ち上げ、国・市・社協等を取りこみ、地域住民と緊急災害時の聴覚障害者用のマップ作りを行っています。

県内各団体は2015年に実行委員会を立ち上げ、2019年に「八団体防災・減災ネットワーク委員会」と名称を変え、以後防災運動会・出前講座・講演会・防災士取得等の活動を続けられていました。

今回の講演で自助＝命の大切さ（自分が第一）、共助＝隣人への思いやり（要支援者への情報提供及び支援）、避難所での柔軟な対応による情報の提供が求められている重要性を改めて認識しました。



私の地域でも防災訓練を行っています。となり組の班長に班の住宅地図を配布して、要支援者の状況別の把握を行い、速やかな情報伝達と支援体制を毎年更新して災害に備えております。

熊本県 荒尾わかぎ 松下さえ子

編集後記

「はっけん」作成にあたり、各県の参加者のみなさまから原稿のご協力を頂きました。ありがとうございました。無事に発行することができ嬉しく思います。よろしければ、九手連HP「掲示板」まで感想などをお寄せください。

次は、9月に久留米でお会いしましょう。

九州手話サークル連絡協議会

発行責任者 池尻和吉

事務局長 森保夫

広報誌担当 田中沙織（長崎県）